

「都市空間部門」総評（審査委員長：陣内秀信）

景観づくりがこれほど豊かで面白いのか、と思わせる素晴らしい成果が本年度は数多く集まった。応募総数はむしろ少なく、やや心配でもあったが、第一次審査で選ばれ現地審査の対象となった6地区のすべてが、現地を訪ねた委員を感動させ、唸らせるほどの成功例であった。長年、国をあげて取り組んできた景観づくりへの努力が大きな実を結ぶ段階にきたことを感じさせる、嬉しい審査会となった。甲乙つけがたい優れた対象ばかりで、しかもスケール、担う主体、手法のどれもタイプの異なる景観づくりへのチャレンジなので、大賞を絞り込むのが極めて難しく、議論の結果、本年度は異例だが、今後の継続的発展への期待も込め、5つの大賞を授与することとした。

大賞を受賞した5地区は、どれも新境地を切り拓くものだった。「越谷レイクタウン地区」は、治水の公共事業を景観に重きを置く地域づくりに結び付けるという発想の転換により、日本離れした大スケールの気持ちのよい水の風景を創造した。「新川千本桜沿川地区」は、大都市の真ん中を流れる河川沿いを舞台に、熱い思いの住民達と経験豊富な行政とのよき協同で実現した美しく居心地の良い水辺空間で、全国のモデルとなる。「旧東海道二川宿地区」は、重伝建地区のような連続した町並みが残るわけではないが、受け継がれた本陣、旅籠屋、商家などを地域財産として上手に活かし、景観形成を明確な戦略をもちながら官民一体となって推進した素晴らしい成功例である。

「旧調布富士見町住宅地区」は、近年、大きな課題となっている団地建替を見事に成し遂げた事例で、住棟群の配置を根本的に変え、中央軸となる素敵なコミュニティ街路を生み出し、美しい景観を創造。その卓抜なるアイデアと実現への努力は高く評価される。「ロープウェー街・大街道周辺地区」は、空き店舗が増えて寂れた商店街を、「まちづくりガイドライン」にもとづき、街路、建物外観、看板などの総合的な景観のマネージメントを成功させ、賑わいが復活した。手づくり的な景観・街づくりの手本と言える。

優秀賞の「警固公園周辺地区」は、危険ゾーンだった場所を、既存の要素を活かしつつ見違えるような魅力ある公園に転換した価値ある成功例で、限りなく大賞に近い業績である。また、東日本大震災の復興のもとで取り組まれた空間づくりの優れた成果である石巻市の「新蛇田地区」に対し、その努力を評価し特別賞が与えられた。

このように本年度は、レベルの高い優れた成果が集結した年だったが、実は、応募申請書の内容だけでは、その価値、魅力が十分に理解できないものも少なからずあった。今後に向け、申請書の書き方への工夫を望みたい。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■ 地区名：旧東海道二川宿地区

■ 面積：約 35.5 ha

■ 所在地：愛知県豊橋市

■ 応募者：豊橋市、'二川宿'まちづくり会、大岩町東まちづくり会、大岩中まちづくり会、NPO法人 二川宿、二川・大岩まちづくり協議会、岩屋緑地に親しむ会、二川リンケージ、二川つるし飾りの会、国立大学法人 豊橋技術科学大学

■ 地区の概要：

二川宿は、旧東海道 33 番目の宿場町で、今でも当時の町割りや本陣などの歴史的建造物が残っている。しかし、切妻平入りの家々が建ち並ぶ伝統的なまち並み景観は大きく失われ、人の繋がりやまちの活気も薄れつつあった。伝統的建造物群保存地区に選定されるには至らない、どこにもでもあるような古いまちで、いかにまち並みを再生し、活気を取り戻すかが課題であった。

市は、昭和 58 年から宿場町の環境整備調査を実施し、宿駅遺構である本陣、旅籠屋、商家を文化財として順次整備し、平成 18 年からは住民と協働によるまち並み景観形成に取り組み出した。一方、地域住民は、様々な団体がまちの魅力向上や、まちの活性化に寄与する活動を、相互に連携しながら進めてきた。この様に、残された 3 つの宿駅遺構を景観の核とし、無理のない景観形成基準を官民で共有し、丁寧な取り組みを継続して進めてきた長年の取り組みにより、旧街道のまち並み景観や瀬古道の路地空間が再生され、更には、住民による花の飾り付けなどが彩りを添え、宿場町の風情が高まっている。

まち並み景観の再生がきっかけとなり、地域イベント等の住民活動も年々広がりを見せ、まちに活気が戻りつつある。また、住民のまちに対する誇りが増し、外部の人からも選ばれるまちになってきたが、まだまだ再生途上であるため、今後も住民と行政のさらなる取り組みを進めていく。

■ 審査講評：

豊橋市は、すでに昭和 58 年から二川宿の歴史的資源の調査をはじめ、これまでに本陣、旅籠屋「清明屋」、商家「駒家」の復原工事を行い、一般公開をしてきた。平成 19 年には延長 1.5km にわたる旧宿場町のほぼ半分を景観条例に基づく「二川宿景観形成地区」に指定し、沿道の建物や工作物等のデザイン誘導をはかってきた。平成 22 年、27 年にはさらに地区を拡大し、現在ではほぼ地区の 8 割が指定されている。その結果、36 件の物件に助成金が出され、まち並み環境は大きく変わってきた。住民との合意形成に時間をかけながら、丁寧に景観形成に取り組んでいること、また改修等のデザイン提案についても、都市計画課の職員が自ら CG を描いて、住民と直接話す話し合う方式は大変素晴らしい。

一方、関係住民団体や NPO も 8 団体あり、「大名行列」や「灯籠で飾ろう二川宿」等のイベント、さらにつるし飾りや一輪挿し等、歴史的な街並みにアクセントを与えている。

本地区の取組は、これまでの重要伝統的建造物保存地区とは異なる、よりゆるやかな歴史的な町並み環境形成に積極的に挑戦しており、特に時間をかけながら行政と住民が一体となって地道に取り組んでいる点は高く評価できる。(卯月)



二川宿の旧東海道沿いの眺め。二川宿は、本陣、旅籠屋、商家の 3 か所を見学できる日本で唯一の宿場町である。左の建物は豊橋市指定有形文化財商家「駒屋」。



商家「駒屋」の広場でおこなわれたイベントの様子。自由に入りにできる「駒屋」の敷地は、土蔵や板塀で囲われ、心地よい空間になっている。



商家「駒屋」の横にある瀬古道（せこみち）の眺め。市の文化財整備（右）と住民の景観整備（左）が一体となって趣のある景観が形成された。



二川宿の夏の風物詩になってきた「灯籠で飾ろう二川宿」の様子。沿線に約 3 千個の灯籠が並び、幻想的なまち並み景観が生まれる。